



# 第 238 回 つくば分子生命科学セミナー

TSUKUBA MOLECULAR LIFE SCIENCE SEMINAR

## 演題：遺伝子改変マウスが空を飛び交う時代がやってくる！

国内外のマウスバンクの最近の動向と増え続ける遺伝子改変マウスの凍結胚・精子の輸送

演者：中潟 直記 先生

熊本大学生命資源研究・支援センター  
動物資源開発部門・資源開発分野 教授

日時：2007年1月25日（木） 16:45～18:30

会場：医学学群棟 4A411

### 要旨：

近年、遺伝子の機能解析およびそれに関連した研究開発が、国家プロジェクトとして世界中で盛んに行われている。その中で重要な役割を果たしているのが遺伝子改変マウスであり、今後、その数は、加速的な勢いで増えることが予想され、最近、これらマウスの維持管理と輸送が、世界中の実験動物施設においてきわめて深刻な問題になっている。今後のライフサイエンスの進展にとって、バイオリソースとしての遺伝子改変マウスは、まさに知的基盤の根幹を成すものと言っても過言でなく、その作製、収集、保存、供給の管理システムが、ますます重要視されている。本講演では、世界のマウス胚・精子のバンクシステム、特にマウス精子の凍結保存およびこれら凍結細胞の輸送・供給体制について述べる。尚本セミナーは、平成18年度の「魅力ある大学院教育イニシアチブ」プログラムで開催される「ほ乳動物遺伝学コース」の一部として開催されます。

### 参考文献

1. Haraguchi R, Motoyama J, Sasaki H, Satoh Y, Miyagawa S, Nakagata N, Moon A, Yamada G. Molecular analysis of coordinated bladder and urogenital organ formation by Hedgehog signaling. *Development*. 2007 Feb;134(3):525-533.
2. Shimozawa N, Okajima K, Harada N, Arai M, Ishida Y, Shimada S, Kurihara H, Nakagata N. Contribution of sensory neurons to sex difference in the development of stress-induced gastric mucosal injury in mice. *Gastroenterology*. 2006 Dec;131(6):1826-1834.
3. Kaneko T, Nakagata N. Improvement in the long-term stability of freeze-dried mouse spermatozoa by adding of a chelating agent. *Cryobiology*. 2006 Oct;53(2):279-282.

連絡先：筑波大学基礎医学系 高橋 智 TEL: 853-7516 Email satoruta@md.tsukuba.ac.jp

【筑波分子医学協会、筑波大学大学院 医科学研究科・人間総合科学研究科 主催】

セミナー担当 筑波大学基礎医学系 横関健昭